

2025 年度 学校法人 三幸学園 名古屋辻学園調理専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 廣畑 祐一

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「全体会議」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・学生募集において、入学定員充足を達成
- ・教育の質向上において、全国調理師養成施設調理技術コンクール(グルメピック)にて内閣総理大臣賞を受賞
- ・就職活動において、例年よりも内定獲得に苦戦した面が見られた

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

入学者数の実績や学生指導の意識統一徹底から学校認知度の高まりや学校理念の浸透を実感しているが、学生への育成人材像の浸透に関してはさらに高めることに課題がある。

② 今後の改善方策

「社会人育成の場」「技能と心の調和」の教育方針をふまえ、日常のホームルームや実習前後の指導において、具体的な行動指針（素直な心、感謝の気持ち等）との紐付けを強化する。

③ 特記事項

教職員間では全体会議や研修を通じ、理念の共有の徹底を図っている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

学生増に伴う教職員の増員により、学生管理システムや勤怠管理システムなどへの適応レベルに個人差が生じており、全体的な業務効率化に余地がある。

② 今後の改善方策

システム活用の標準マニュアルを整備し、定例職員会議でのミニ研修や個別面談を通じたフォローアップを徹底する。また、三幸学園グループ内の先行事例を積極的に取り入れる。

③ 特記事項

姉妹校間で情報や資料を共有し全体的な業務効率化を行っている。また、就業規則や職員行動指針を共有することで、就業規則や勤怠の順守を図っている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

さらなる「価値ある人財」輩出のため、教育課程の更なる体系化と、教員の技術研鑽機会の拡大が必要。

② 今後の改善方策

業界の変化を反映した教育課程の再構築を進める。卒業生訪問や企業連携を強化し、現場で求められる最新技術をカリキュラムに還元する。姉妹校合同の技術研修の頻度を高め、教員力の底上げを図る。

③ 特記事項

技術授業担当教員向けの研修（内部 2 回・姉妹校合同 2 回）を実施
教員力、技術力アップを定期的に図っている。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・ 求人数は増加傾向で、卒業年次学生数に対しての求人数は担保できているが、卒業生との連携に弱い部分がある。
- ・ 中々内定をもらえない学生も増えてきている。
- ・ 1年生の退学率が高い状況が続いている。

② 今後の改善方策

担任制度を軸とした個別面談時間を拡充し、早期に悩みや不安をキャッチアップする。卒業生向け SNS やツールの活用を促進し、就職後の活躍状況を教育活動の改善にフィードバックさせる。

③ 特記事項

- ・ 全国調理師養成施設主催 【グルメピック】にて内閣総理大臣賞を受賞。
- ・ クラス担任制にした結果、学生との関係性が高まり、前年度より退学率は低下

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

トップ層への支援体制の更なる高度化と、中途退学者へのフォロー体制の整備。

② 今後の改善方策

Web 面接用ブースの拡充など、最新の就職活動形態に合わせた設備投資を行う。退職者向けの再就職相談窓口の周知を強化し、セカンドキャリアへの支援も視野に入れる。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

調理機器の経年劣化への対応。

② 今後の改善方策

- ・ 中長期的な施設設備更新計画に基づき、優先順位をつけて随時更新を行う。特に安全面を考慮した点検を強化する。
- ・ インターンシップ受入れ企業に関して従来の訪問に加え、卒業生就職先訪問を強化し、受け入れ先企業を更に開拓する。

③ 特記事項

- ・ 全学生・教職員の避難訓練を実施。
- ・ 全館の大きな調理機器に関して、地震対策で壁に固定する器具を設置。
- ・ 避難場所への移動を確認。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

調理師科(1 年制)の募集安定化。

② 今後の改善方策

1 年制学科のメリット(早期就業、コストパフォーマンス等)を再定義し、社会人や留学生を含む多様なターゲットへの訴求を強化する

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第 3 期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第 3 期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

継続的な法令順守のため、全教職員対象のコンプライアンス研修を定期実施し、情報公開の正確性を精査する体制を維持する。

③ 特記事項

個人情報の保護・管理について学校外流出なしを徹底に努めている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

産官学連携（飛騨市、イオン等）を継続し、名古屋市と連携した中学生へのキャリア教育など、外部からの期待に応える活動を推進する。

③ 特記事項

- ・ 飛騨市・イオンなど多くの企業との産学連携を継続中
- ・ 名古屋市と連携し、中学生へのキャリア教育を実施
- ・ 年々、外部からの連携依頼が多くなってきている。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

留学生の就労ビザ取得を前提とした就職先開拓の困難さ。

② 今後の改善方策

行政の最新施策を収集し、留学生受け入れに意欲的な企業とのマッチング機会を創出するための体制を整備する。

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全体として、教育の質および運営体制は高い水準を維持している。今後は「教育の体系化」と「学生との個別コミュニケーションの深化」を両輪で進めることにより、さらなる教育成果の向上を目指す。